

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 28 日現在

機関番号：11301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06682

研究課題名(和文) 権威主義体制の選挙の理論とその包括的実証研究

研究課題名(英文) Theory and Empirical Analyses of Autocratic Elections

研究代表者

東島 雅昌 (Higashijima, Masaaki)

東北大学・情報科学研究科・准教授

研究者番号：10756349

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、権威主義体制の選挙がどのように設計され、設計された選挙がいかなる政治経済的帰結を持つのかについて理論を構築し、国際比較の統計分析と中央アジア諸国の事例研究を通じて実証分析をおこなった。選挙不正や選挙制度改変によって自分に有利なように選挙結果を操作すると、選挙が体制を揺るがすことはないが、選挙が体制の正統性を高めることはない。この権威主義体制下の「選挙のジレンマ」に焦点を当てて、選挙不正・選挙制度改変・政治的景気循環・選挙後政治紛争を統一的な説明を可能にする理論・実証分析をおこなった。それぞれのパートの研究成果の一部は英語・日本語で公刊され、海外・国内の学会や研究会で研究報告した。

研究成果の概要(英文)：This project explored the causes and consequences of autocratic elections. In so doing, I offered a theory of autocratic elections and tested the theory on a battery of cross-national analyses and comparative case studies of the Central Asian Republics. Autocrats are able to manipulate election results in favor of themselves via electoral malpractice and electoral system change. Those measures facilitate overwhelming election victories but they also undermine various informational benefits that elections may bring. Under the constraint of this "electoral dilemma," autocrats design elections. Designed elections then have important implications on economic policy and post-electoral conflicts in the form of political business cycles, popular protests and leadership turnover. Part of the project has been published as book chapters or journal articles and also presented in multiple conferences and invited workshops.

研究分野：政治学・比較政治学・政治経済学

キーワード：権威主義体制 選挙 選挙制度 経済政策 民主化 多国間統計分析 中央アジア 開発途上諸国

1. 研究開始当初の背景

1970年代中頃よりはじまる「民主化の第3の波」以降、多くの国々が民主化を達成した。他方、定期的に選挙は実施するが選挙が民主的基準を満たさない「選挙権威主義」あるいは「競争権威主義」と呼ばれる権威主義体制も数多くみられるようになった。権威主義体制の多様化を踏まえ、非民主制下の選挙・政党・議会といった、実質的機能をもたないとされてきた政治制度が、実は統治の安定性に貢献しているのではないか、という議論がなされるようになった。

2. 研究の目的

研究代表者は、非民主制(権威主義体制・独裁制)下の選挙の理論の構築とその体系的実証分析をおこなった。具体的には、以下の3つの作業に従事した。(1) 権威主義下の選挙理論を定式化し、政治指導者がいつ選挙不正や選挙制度変更をつうじて選挙結果を歪めようとするのか、そして不正や制度変更により設計された選挙がいかなる政治経済的帰結を伴うのか、理論的に明らかにした。(2) 多国間分析と比較事例研究により実証分析をおこない、選挙のシグナリング効果についての体系的エビデンスを提示した。

(1) 選挙不正の決定要因 不正の少ない選挙は体制の正統性を誇示し、体制運営に有益な情報効果を生み出すが、独裁者が選挙で圧勝する可能性を低める。このジレンマのもと、市民の支持を得られる「強い」独裁者は、不正の少ない選挙でも勝利できるため選挙不正の水準を引き下げることを実証的に示した。具体的には豊富な石油資源を有しそれを効率的に分配できる支配政党をもつ独裁者は選挙

不正に訴えない傾向にあることがわかった。

(2) 選挙制度改革の決定要因 同様の理論枠組を応用して、選挙制度選択に小選挙区制と比例代表制のいずれの選挙制度を選択するのか分析をおこない、国際・国内学会で報告し成果の一部を公刊した。野党参加のある選挙権威主義下で、独裁者のとる選挙制度はバラツキがある。小選挙区制は、少ない得票でも与党に大きな議席プレミアムを付与するため市民の支持のない独裁者は小選挙区制を選択する。支持動員できる「強い」独裁者は、野党を分断し高い投票率を叩き出し体制の強固さをさらに誇示するため比例代表制を選択する。支持動員能力と強く相関し選挙制度との内生性を回避できる天然資源を用いた統計分析と中央アジアの事例研究では、天然資源を持つ独裁者ほど比例代表制を採用することが分かった。

(3) 政治的景気循環の決定要因 上記の分析は、非民主制下で選挙操作が相対的に少ない選挙ほど、経済分配をとまうと示唆する。野党の選挙参加が許されず、与党の形式的信任投票である翼賛選挙の場合、選挙結果が圧倒的勝利を生み出し、選挙は体制の強さを説得的に伝えられない。逆に、政党間に一定の競争が存在する場合、与党が80-90%の得票率を得て圧倒的勝利を達成すると、体制の力を効果的に誇示できる。ゆえに、選挙に多元性と競争性が存在するとき、独裁者は経済政策を操作してバラまき政策を実施し市民の支持を集めようとする、と予測できる。1970年から2006年の120カ国を含む多国間統計分析は、野党参加が認められた選挙や不正の少ない独裁選挙でのみ、選挙年財政赤字が増えること

を示した。

(4) 選挙後紛争の決定要因 「選挙のジレンマ」に対処し損なうと選挙は独裁者を脅かす。まず、独裁者の財政資源が少ないにもかかわらず、選挙不正に訴えなかったとき、与党は圧倒的勝利を手にし損ねる。選挙による脆弱性の露呈はクーデタや与党エリートの離反または選挙での敗北をつうじ、独裁者交代をもたらす。逆に、過度な選挙不正を用いると選挙の情報効果はなくなる。結果として、体制に不満を抱く人々は抗議運動を起こしやすくなる。78カ国(1977-2004)をサンプルとした統計分析は仮説を支持した。また過度の選挙不正が抗議運動を引き起こした事例として、キルギスのアカエフ体制を検討した。

3. 研究の方法

多国間比較の統計分析と中央アジアの比較事例研究を併用した。

4. 研究成果

研究期間中に、英語査読付き雑誌に3本、日本語の雑誌論文として2本、英語のワーキングペーパーとして、4本を出版することができた。また、計25件の研究報告を英語・日本語で行った。権威主義体制下の選挙不正の決定要因に関する研究、選挙権威主義体制の民主化に関する論文、選挙制度改革に関する論文、権威主義体制下の政治的景気循環に関する論文など、本研究課題で提示する理論枠組によって導き出された仮説を実証的に検証し、その成果を公刊することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

(1) 粕谷祐子・東島雅昌. 「選挙権威主義体制からの民主化」『比較政治学会年報』第19号,頁数未定,2017年。

(2) Bodea, Cristina and Masaaki Higashijima. "Central Bank Independence and Fiscal Policy: Incentives to Spend and Constraints on the Executive." *British Journal of Political Science* 47-1: 47-70, 2017.

(3) Bodea, Cristina, Masaaki Higashijima, and Raju Jan Singh. "Oil and Civil Conflict: Can Public Spending Have a Mitigation Effect?" (with Cristina Bodea and Raju Jan Singh). *World Development* 78, 1-12, 2016.

(4) Higashijima, Masaaki and Ryo Nakai. "Elections, Ethnic Parties, and Ethnic Identification in New Democracies: Evidence from the Baltic Countries." *Studies in Comparative International Development* 51: 124-146, 2016.

(5) 東島雅昌. 「中央アジア諸国における選挙制度の『改革』: 選挙権威主義体制下の選挙制度設計とその帰結」『選挙研究』第31-2号、62-76頁,2016年。

(6) Higashijima, Masaaki and Yuko Kasuya. "The Peril of Parliamentarism? Executive-Legislative Relations and Democratic Transitions from Electoral Authoritarianism." *European University Institute Working Paper Series No. 1*: 1-46, 2016.

(7) Singh, Raju Jan, Cristina Bodea, and Masaaki Higashijima. "Guns, Books, or Doctors? Conflict and Public Spending in Haiti: Lessons from Cross-Country Evidence." *World Bank Policy Research Working Paper Series. No. WPS7681*: 1-31, 2016.

(8) Higashijima, Masaaki and Eric C. C. Chang. "The Choice of Electoral Systems in Dictatorships." WIAS Discussion Paper Series No. 2016-001: 1-39, 2016.

(9) Higashijima, Masaaki. "Political Business Cycles in Dictatorships." WIAS Discussion Paper Series No. 2016 -002: 1-39, 2016.

〔学会発表〕(計 25 件)

[1] Higashijima, Masaaki. "Malapportionment and the Value of a Vote: A Cross-National Analysis." December 3-4, 2016. Shanghai University of Finance and Economics, Shanghai, China.

[2] Bodea, Cristina, Carolina Garriga and Masaaki Higashijima. "Monetary Constraints, Spending and the Survival of Autocrats in Dominant Party Regimes." September 3, 2016. Annual Meeting for the American Political Science Association, Philadelphia, USA.

[3] Masaaki Higashijima and Eric Chang. "The Choice of Electoral Systems in Dictatorships." September 1, 2016. Pre-APSA Workshop for the Electoral Integrity Project, Philadelphia, USA.

[4] Higashijima, Masaaki. "Political Business Cycles in Dictatorships." June 8, 2016. The Max Weber Program June Conference, European University Institute, Florence, Italy.

〔図書〕(計 1 件)

[1] Higashijima, Masaaki. "Do Contentious Elections Overthrow Leaders?" In Pippa Norris, Richard Frank, and Ferran Martinetz i Coma eds. Contentious Elections: From Ballots to Barricades. New York: Routledge, pp. 64-85, 2015.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6 . 研究組織
(1)研究代表者
東島 雅昌 (Higashijima, Masaaki)
東北大学大学院情報科学研究科・准教授
研究者番号：10756349